

渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎36局6503

田原臨海工業の曙 東三河工業整備特別地域に

平成17年の工業統計によると、田原市の製造品出荷額は2兆円に達し、全国で第17位、県内では豊田市、名古屋市に次いで第3位となりました。昭和30年（21億円）、昭和40年（61億円）のころに比べると驚異的な伸びといえます。これは田原北部の埋立地に進出したトヨタ自動車をはじめとする工場の集積によるものです。

ノリの養殖場が一面に広がった、田原湾ののどかな風景が工業



●田原臨海工業用地(国土地理院・空中写真 1978年撮影)

地域に一変したきっかけは、昭和38年7月に東三河が「工業整備特別地域」に指定（閣議決定）されたことにあります。これは、工業の発展を促進し、国土の均衡ある発展を目的としたものです。

さらに、翌39年4月には三河港（昭和37年に田原港・豊橋港・蒲郡港・西浦港が統合）が国の「重要港湾」に指定されました。これらを受けて、昭和42年から大規模な臨海工業用地の造成が進められたのです。

企業進出・トヨタ田原工場操業

昭和44年11月契約の三菱セメント

を皮切りに、埋立造成地への企業進出が始まりました。昭和45年に東京チェーンアンカーが、昭和46年に北炭カーボン、日本レダリーが進出を決定しました。

昭和54年1月には、トヨタ自動車の10番目の工場として、田原工場の操業が始まりました。用地の決定（昭和49年6月）にあたっては、年産300万台体制に対応できる工場用地を求めて東海三県を中心に広域的な調査を行った結果、田原町に決まったようです。



●昭和54年1月 田原工場第1号車ラインオフ(トヨタ自動車株式会社提供)

「臨海部に専用ふ頭をもった工場を建設すれば、大幅な流通コスト削減となることや新工場建設を機に生産の自動化も推進でき、人件費削減など製造コスト削減も期待できることなど、増え続ける輸出の円高対策として決定打となることが期待された」（東日新聞）ことによるものです。これに合わせ関連企業などの進出が進み、平成27年9月現在、田原臨海工業用地に71社が立地し、うち64社が操業しています。

田原町（平成15年8月から田原市）の変ぼうぶりから見れば、トヨタ自動車の進出は田原市にとって画期的な出来事だったといえるでしょう。

（執筆委員・大和貞雄）

今月の「表紙」

▼花の一大生産地である田原市。「今月の渥美半島の花と鉢花」と称して、ひと月ごとに花と鉢花をPRしています。また、市民の皆さんが花に触れる機会をつくらうと、市内の花農家さんなどが立ち上がり、来月2月、「渥美半島花の超祭典」が開催されます。花の魅力いっぱいイベントになりそう、とても楽しみです。(M)

〔表紙の写真〕10月の渥美半島の花・バラ（西山町）